

整備事業  
(産地競争力の強化を目的とする取組用)

(鹿児島県 令和2年度)

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名)①	メ ニュー ① 成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績① (対象作物・畜種等名)②	メ ニュー ② 成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考		
			計画時(平成28年)	1年後(平成30年)	2年後(令和元年)	3年後(令和2年)	目標値(令和2年)	達成率			計画時(平成28年)	1年後(平成30年)	2年後(令和元年)	3年後(令和2年)	目標値(令和2年)	達成率			交付金	都道府県費	市町村費	その他						
和泊町	南栄糖業株式会社	畑作物・地域特産物(甘味資源作物) 単収を12.5%増加	H25～27の平均4,848kg/10a	5,210kg/10a	5,170kg/10a	5,793kg/10a	5,454kg/10a	155.9%	単収19.49%増加	畑作物・地域特産物(甘味資源作物) 糖度を3.3%増加	H22～28の7中5平均14.13度	13.66度	14.69度	14.93度	14.59度	173.9%	糖度5.66%増加	製糖関連施設 ジュースヒーター 100㎡4基	235,440,000	126,255,000			109,185,000	H30.11.19	当地域は台風や干ばつ等の気象災害の影響を受けやすく、単収や糖度が不安定である。さとうきび栽培においては、有機堆肥による地力向上、原料受け入れの安定を図り、農家の計画的な収穫作業及び出荷、適期管理作業の推進を図ったことで単収が19.49%増加した。また、台風や干ばつの気象災害が少なかったことにより、さとうきびの糖度が5.66%増加となった。加工処理施設については、ジュースヒーターを増強更新したことにより、さとうきびを計画通りに安定して処理できるようになった。	令和2年度は、全目標を達成し、事業効果があることを確認できた。今後も引き続き、計画通りの生産及び製糖ができるよう、町と協力し支援していく。		
喜界町	公益財団法人喜界農産開発組合	畑作物・地域特産物(甘味資源作物) 一戸当たり収穫面積	238a/戸 収穫面積1,430ha 農家戸数601戸	248a/戸 収穫面積1,308ha 農家戸数527戸	264a/戸 収穫面積1,380ha 農家戸数523戸	270a/戸 収穫面積1,430ha 農家戸数529戸	81.25%	一戸当たり収穫面積が10.9%増加	畑作物・地域特産物(甘味資源作物) 製糖原料における夾雑物の混入率の削減割合	34.2%		22.1%	19.7%	50.0%	-91.8%	製糖原料における夾雑物の混入率の削減割合が14.5%減少	農産物処理加工施設(精脱葉処理施設)	360,878,000	200,462,000	100,000,000	60,416,000	R1.12.26	令和2年度さとうきびのハーベスターの搬入率は96.95%と平成29年度(計画時)の94.65%よりも上昇し、引き続き高い割合で推移していく事が予想される。ハーベスターにより収穫されたさとうきびの安定的な受入体制を確保し、農家の計画的な収穫作業、適期管理作業を推進するうえで、旧精脱葉処理施設では対応できない状況となってきたため、令和元年度繰越の精脱葉処理施設の能力向上は必要不可欠なものであった。	一戸あたりの収穫面積は、台風の影響で収穫面積が減少したことから、目標達成に至らなかった。事業主体への支援と並行し、適期管理や新植推進ができるよう、地域の委託組織等への支援を継続していく。夾雑物の混入率削減割合は、事業実施前は精脱葉処理施設内で脱葉後に人力による箱頭部の除去を行っていたが、事業実施後は精脱葉処理施設のみによる脱葉作業を行っていることが目標未達成の要因と考えられる。				



整備事業  
(産地競争力の強化を目的とする取組用)

(鹿児島県 令和 2 年度)

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名) ①	メニュー ①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー ②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分 (円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時(平成28年)	1年後(令和元年)	2年後(令和2年)	3年後(令和3年)	目標値(令和2年)	達成率				計画時(平成28年)	1年後(令和元年)	2年後(令和2年)	3年後(令和3年)	目標値(令和2年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
鹿屋市(広域)	鹿児島くみあい食品(株)	いも類(ばれいしょ、さつまいも)、にんじん	対象品目の販売金額の増加割合	635,517千円	18%増(750,410千円)	66%増(1,057,050千円)		143%増(1,547,275千円)	46.2%	いも類(ばれいしょ、さつまいも)、にんじん	対象品目の契約取引割合	50% (1,357t/2,711t)	75% (3,132t/4,165t)	79% (3,398t/4,297t)		67% (4,157t/6,211t)	170.6%	農産物処理加工施設 ○加工施設一式建物 (6054.77㎡)、チルドライ(日量18.2t)、さつまいも原料処理7トン(日量3.2t)、さつまいも製品製造7トン(日量2.1t) ○貯蔵施設一式原料貯蔵庫(1768t)、製品冷蔵保管庫(38t)、製品冷凍保管庫(18t)	2,723,760,000	1,188,555,000		1,535,205,000	H31.3.20	馬鈴薯については、優良種芋の確保から集荷まで、経済連・JA・当社と連携を図り産地振興に努めた。とおやとホッカイコガネの2品種を契約栽培しているが、とおやは2.8t/10aの計画に対して計画並みの2.8t/10aの実績、ホッカイコガネについては、計画3.0t/10aに対して4.2t/10aの実績となり、生産者は次年度以降面積拡大の意欲が高く、産地振興につながった。一方、さつまいもは基腐病の蔓延に伴い、生産者がさつまいも栽培自体を辞める方もいて面積は減少した。効果的な薬剤がないことから、関係機関と連携して排水対策等を中心とした生産指導を実施するとともに、次年度以降に向けて、当社内部でもプロジェクトを立ち上げ優良種苗の確保等に努めた。	ばれいしょについては、計画単収を上回り、生産者の次年度以降の面積拡大意欲が高く、産地振興につながっている。さつまいもは、基腐病の蔓延に伴い、栽培面積が減少しているため、関係機関・団体との連携により、基腐病対策の指導に努める。にんじんは、今冬から加工を始める予定であるため、今後の計画的な取組を支援する。当該事業の導入により、販売金額は増加しているが、コロナ禍による商談遅延や消費地の飲食店の経営不振等により販売高が上がりず目標に達していないため、アフターコロナに向けた販路開拓を推進する。				

都道府県平均達成率	70.0	総合所見	<p>○県全体 6事業主体のうち2事業主体が設定した目標を達成することができた。未達成の事業実施主体について、目標達成に向けた取組への支援を進める。</p> <p>○畑作物・地域特産物(甘味資源作物) 台風の影響により収穫面積が減少したことから目標達成には至らなかったため、今後も地域の受託組織等への支援を継続していく。</p> <p>○畑作物・地域特産物(いも類) 当該事業の導入により、販売金額は増加しているが、コロナ禍による商談遅延や消費地の飲食店の経営不振等により販売高が上がりず目標に達していないため、アフターコロナに向けた販路開拓を推進する。</p> <p>○畜産 3事業主体のうち2事業主体は、新型コロナウイルス感染症や飼料価格の高騰等の影響により、畜産加工品出荷額や生産コスト低減の目標達成には至らなかった。引き続き、目標達成に向けた効率的な飼育による生産コスト低減等の取組への支援を進める。</p>
-----------	------	------	--